

令和元年度学校評価結果及び学校関係者評価結果

重点目標		(1) 「課題探究」を軸としたカリキュラム・マネジメントを学校全体で推進する。 (2) 新教育課程の検討を進めるとともに、主体的・対話的で深い学びへの授業改善を推進する。 (3) 教育活動全体を通じて、生徒の主体性、公共心、思いやりの心を育成する。 (4) 強く靱やかな学力を育てるとともに、多様な学びを記録する方法を確立する。 (5) 教育活動の見直しや業務の精選を図り、教職員の多忙化の解消に努める。	
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
教務	業務の改善と一層の効率化とを目指すと共に、新教育課程の編成を円滑に進める。	・部内の業務内容について改善できる点を検討する。また、発信する情報をわかりやすく伝えることや、業務のマニュアル等を作成することで、部内だけでなく校内全体の業務の効率性を高める。 ・カリキュラム委員会、教科主任会を通じた協議を行い、新学習指導要領の趣旨を踏まえながら、本校の学校目標に沿った教育課程の編成を目指す。	・教務上の諸問題や連絡事項については教科会や学年会と密にやり取りをすることができた。一部業務についてのマニュアル作成や、時間割の変更連絡における効率化など改善を図ることができた。 ・新教育課程の編成については、学校目標を共有した上で、各教科の意向を踏まえ、現在カリキュラム委員会において、問題点等を明確にしながら検討を進めることができた。
総務	給付型奨学金が多種多様化し、対象学年も広がる傾向にある状況に対し、学校全体で協力して手続きの指導ができる体制を確立する。	他分掌や各学年会と連携を取り、必要な情報を適確に生徒に伝えるようにする。また、学年会の中の生徒情報等を担当者で共有し、奨学金に関する指導に活かされるようにする。	給付型奨学金拡充という比較的大きな変動のあった年度となった。手続き日程が定着していない状況下で、学年会の協力もあり、なんとか指導することができた。今年度の新日程、新方式を踏まえて来年度の適切な指導手順を検討したい。
生徒指導	「礼節を重んぜよ」を基盤とした行動の実践と、明和生としての帰属意識を高める。	・日々の遅刻指導や身だしなみ指導を通して、節度ある行動（挨拶、身だしなみ、言葉遣い）や時間管理などの社会的資質を向上できるようにする。 ・情報モラルに関して、情報化の問題点を理解し、良識ある行動がとれるようにする。 ・生活指導強調週間で生徒の参加を募り、生徒主体の活動になるように企画し、生徒の主体性、公共心、思いやりの心を育成する一助とする。	・12月までの遅刻総数は、昨年度より上回った。不登校気味の生徒が増えているだけでなく、同じ生徒が遅刻を繰り返している現状もある。学校全体で遅刻の減少に努める必要がある。 ・登下校時のマナーに関して、外部からのご指摘も多いため、クラス掲示等を通じて生徒に意識させたい。 ・情報モラルに関しては、6月にe-ネットキャラバン主催の「インターネットの安心・安全な使い方」を実施した。SNSでのいじめや誹謗中傷がないよう、学年と情報共有していきたい。 ・生活指導強調週間での生徒参加は、来年度以降、主体的に参加する生徒が増えることを期待したい。
進路	高大接続改革の実施にあたり、職員間で共通認識をもち、学校全体で、組織的に継続性のある進路指導を展開する。	・実力考査のデータの有効活用を図るため、実力考査の実施について引き続き調査し、実力考査の改善案を提示する。 ・キャリア教育の充実に向けて、各種ガイダンスを改善し、1、2年生における進路意識の高揚を図る。 ・各学年で行われる進路情報交換会の内容の充実を図り、最後まで第一志望を大切にす進路指導を展開する。 ・高大接続改革に対応して、ポートフォリオの一層の活用を図る。	・今年度の実施状況・活用状況を調査した。来年度は「高校生のための学びの基礎診断」についても検討したい。 ・各種ガイダンスの改善に取り組んだ。生徒の評価は良好であるが、ガイダンスのより効果的な実施方法を検討したい。 ・2年生の情報交換会を7月実施に変更することで、類型登録の円滑化に寄与できた。1、2年生の第2回情報交換会のより円滑な実施を図りたい。 ・ポートフォリオを活用した調査書作成に移行したが、いくつかの問題点も見つかった。より効率的で間違いのない方法への改善を進める。
保健相談	快適な学校環境を実現するとともに、生徒の心身の健康増進をはかる。	・日々の清掃や点検活動を通し、自ら環境美化について考える姿勢を育成する。 ・学年との情報交換を密にすることにより、早期に連携して生徒対応ができるようにする。	・安全委員の広報活動を活発化し、清掃活動と安全点検にしっかり取り組むことができた。 ・学年会での生徒情報を共有することにより、生徒対応を早期に行うことができた。

			・けがの防止や熱中症対策の啓発を行っていく。
生徒会	自主自立の精神に基づき、全校生徒が主体的に活動する。	・各行事のもつ意味についてあらためて考え、目的を意識して企画、運営する。 ・効率的な行事運営をし、種別委員会の負担を減らす。 ・東北被災地関連の企画を継続して行う。	・文化祭は例年以上に新しい工夫や改善がなされ、質的に向上した。熱中症対策が急務である。 ・負担の改善に努めているが、反省会等の時間が長いのを是正したい。 ・例年通り良い企画となった。
図書情報	・生徒および教員の図書館利用を活性化する。 ・教員用パソコンの更新に対して円滑な対応を図る。	・生徒図書部の活動が主体的に行われるようにし、「図書館報」「ほいさっさ」などの内容を充実させる。 ・部屋ごとのプリンタの設定、申請書に基づくソフトのインストールを行う。	・今年度(12月まで)の貸出冊数は817冊で、昨年より減少した。原因は主に1年生の利用が伸びなかったためと思われる。また図書館での授業利用は50時間で、昨年比較で倍増した。さらに各教科と連絡を密にし、図書館利用をさせたい。 ・教員用パソコン・ネットワークの更新についてはひとまず落ち着いたが、いまだ不具合も多い。引き続き対応を図りたい。
研究開発	各学校設定科目やSSH事業と課題研究との結びつきを強化し、課題研究によって得られた研究成果の発表の場を充実させる。	生徒が課題研究を円滑に進めていくために、各学校設定科目やSSH事業において、研究に対するスキルが身に付くような指導体制や評価法を構築する。また、課題研究の研究成果を発表する場を、国内外を含めて開発していく。	教員用指導書「課題探究トリセツ」の導入や理科の協力による「課題探究自主講座」の開設により「課題探究」を円滑に進めることができた。また、「明和グローバルサイエンス交流会」の開催により、課題研究の英語による発信の場を国内においても整備することができた。
音楽	品格のある音楽科生徒を育てる。	・言葉遣い、立ち居振る舞い、美しい姿勢、挨拶、生活マナー、演奏マナー、常識をわきまえる、他者を思いやるなど、各自に目標をもたせて努力させる。 ・専攻実技と教科の学習の両立を計画的にこなせるように指導する。 ・自分と向き合う強さをもたせる。	・日常生活の中で、気づいて実行することの積み重ねを大事にさせたい。 ・専攻と一般教科の学習のバランスがとれない生徒が多い。 ・各学年に心の悩みを抱えている生徒もいるので注意して見守っていききたい。
1年	基本的生活習慣を整えるとともに、授業を大切に、何事にも挑戦して主体的に取り組む中で、リーダーとして社会に貢献できる生徒を育てる。	・時間を守る、授業を大切に学習姿勢、部活動や行事、清掃などに積極的に取り組むといった姿勢を身に付けさせる。 ・自主自律を大切にしながら、集団生活において大切な他者への思いやり、気づきの心をもたせる。	・学校生活にも慣れ、部活動や行事など様々な面において積極的に取り組むことができた。 ・気づきの心を持ち、何事にも挑戦することができるように、来年度も引き続き指導を継続していききたい。
2年	・学校の中核を成す学年としての自覚をもち、何事にも主体的・積極的・協力的に取り組ませる。 ・自己の将来について真摯に考えるとともに、進路実現に向けて高い目標を掲げ、計画的に学習に取り組ませる。	・学習と特別活動の切り替えを常に意識させ、時間を有効に使えるよう指導する。 ・基本的生活習慣を整え、あらゆる機会や活動を通して公共心や協調性を身に付けられるよう指導する。 ・類型登録に向けて、自己の進路について更に高い意識をもてるよう指導しつつ、幅広くさまざまな分野を学習することの意義を理解させ、授業への誠実な取り組みを最後まで継続させる。	・生徒は時間を有効に使えるよう工夫し、学習と特別活動の両立に努めている。 ・部活動や学校行事を通して、公共心や協調性を着実に養うことができた。 ・類型登録を経て、進路に対する意識が高まった生徒が一方で、不振科目を多く抱える生徒や学校に適応できていない生徒もいる。情報交換を密にし、生徒の状況に合わせて適切に援助していく必要がある。
3年	・最高学年の生徒として、学校生活の全ての場面で下級生の模範となり、さらには社会に貢献できる人物に成長するよう指導する。 ・生徒各自が自己の進路目標について主体的に考え、実現に向けて計画的に取り組むことができるように援助する。	・高校生という立場をわきまえて、場面に応じた適切な行動をとることができるよう指導する。 ・進路目標・学習状況に関する情報を学年会で共有し、本校生徒の特性を考慮した適切な進路指導・学習指導をする。	・学校行事をはじめとして、さまざまな場面において、概ね自ら考えて適切に行動できるようになった。 ・生徒各自が進路目標について主体的に考え、教員のアドバイスを受けながら実現に向けて計画的に取り組むことができた。
いじめ防止基本方針に基づ	いじめの未然防止、早期発見を図る。	生徒の不安や悩みを把握するため、年2回の「いじめ・迷惑行為調査」の他、個人面談、健康観察等を実施する。	「いじめ・迷惑行為調査」を2回実施した。あわせて個人面談や毎日の健康観察を行い、早期発見早期対応に生かす

く取組			ことが出来た。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止の実施状況	在校時間が月80時間を超過している教員の割合を5%以下にする。	・職員室の開錠時間及び最終施錠時間を適切に設定し、合理的な働き方の工夫を推進する。 ・安全衛生委員会の定めた定時退校日を周知徹底し実施する。 ・部活動総合指導員と関係顧問が連携し、土休日の職員の負担を軽減する。	在校時間80時間超の延べ教員数は、前年比で30%程度減少した。一方、全体に対する割合は9%程度であり、目標の5%以下を達成することは出来なかった。
総合評価		・新学習指導要領を視野に入れながら、SSH事業を中心に据えた学校全体でのカリキュラムマネジメントを推進し、「明和のミッション」を完成させた。 ・多忙化解消の取り組みは、学年や分掌や部活動等における業務改善によって、一定の効果を上げた。	

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	・次期学習指導要領を視野に入れながら、SSH事業を中心に据えた学校全体でのカリキュラムマネジメントを推進し、教育課程を円滑に効果的に実施するために、職員間の連携や工夫ができたか。 ・学年や分掌や部活動等における業務改善の取組によって、多忙化解消を図ることができたか。
自己評価結果について	・SSHの成果に期待している。世界のリーダーを育てていって欲しい。
今後の改善方策について	・熱中症問題への取り組み ・不登校への取り組み ・教職員の働き方改革への取り組み
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）	・自主自立が明和高校の伝統である。 ・大学受験一辺倒にならない全人教育の意義は、社会に出てから分かる。 ・働き方改革のためには「やらないこと」を決めることが大切である。 ・我々OBを活用して欲しい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	・構成……学校評議員4名及びPTA会長・副会長 ・評価時期……第1回：（11月15日実施）、第2回：2月29日（新型コロナウイルス感染症拡大により中止）